

■ シェーナ／トランペット協奏曲第1番

シャルル・シェーナ（1925-2016）は今回、演奏される作曲家の中では一番年下である。トゥールーズの音楽家一族の出身で、トゥールーズ音楽院で学んだ後、パリ音楽院でミヨーとジャン・リヴィエに師事した。1951年、ローマ賞大賞を獲得し、数々の作曲コンクールで入賞したのち、音楽放送局のフランス・ミュージクの総監督も務めた。今年の6月24日、90歳で亡くなった。

トランペット協奏曲第1番は1956年、パリ音楽院の試験課題曲として作曲され、モーリス・アンドレによって、58年にラジオ・フランスで初演された。スタンダードなレパートリーの仲間入りをして、世界のコンクールでも課題曲になる作品である。編成はピアノと打楽器を加えた弦楽合奏。モデラートの導入部をもつプレストの第1楽章、アダージョの第2楽章、アレグロ・ジョコーゾの第3楽章からなる古典的な構成で、独奏とオーケストラのパートが対話と対決をみせる協奏曲となっている。

白石美雪

※掲載された曲目解説の無断転載、転写、複写を禁じます。